

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和6年度)

2025年2月25日

足立区教育委員会

〒 103-0011

所在地 東京都中央区日本橋大伝馬町17番3号

評価機関名 経営創研株式会社

認証評価機関番号 機構03-084

電話番号 03-6661-9410

代表者氏名 代表取締役社長 堀部伸二



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
⑥				
福祉サービス種別	小規模保育事業			
評価者対象事業所名	ちぐさ保育園カノン千住園			
事業所連絡先	〒	120-0034		
	所在地	東京都足立区千住1丁目30番3号		
	TEL	03-3881-2783		
事業所代表者氏名	園長 諸田浩子			
契約日	2024年6月19日	契約日を入力してください。		
利用者調査票配布日(実施日)	2024年10月18日	利用者調査票配布日(実施日)を入力してください。		
利用者調査結果報告日	2024年12月25日	利用者調査結果報告日を入力してください。		
自己評価の調査票配布日	2024年10月18日	自己評価の調査票配布日を入力してください。		
自己評価結果報告日	2024年12月25日	自己評価結果報告日を入力してください。		
訪問調査日	2025年1月17日	訪問調査日を入力してください。		
評価合議日	2025年2月16日	評価合議日を入力してください。		
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点 補助者・専門家等の活用、第三者 性確保のための措置などを記入)	<p>保育所の評価経験豊富な評価者で評価をおこないました。園から届いた経営層分析シート及び関連資料と職員自己評価と保護者アンケートの集計が出た段階で事前打ち合わせを実施しました。訪問調査当日は、園長、設置者とのヒヤリングや資料確認、園の見学などをおこないました。また、園児と同じ食事をいただきました。調査終了後、直ちに評価者全員で現状の確認と力を入れている点や良い点、改善点について話し合いました。報告書の評点及び講評については最終合議の席で決定しました。</p>			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

令和7年 2月27日

事業者代表者氏名

ちぐさ保育園カノン千住園
施設長 諸田浩子

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：小規模保育事業〕

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>1)園での生活を通じ思いやりのある子どもに育てます。</p> <p>2)お子様のご家族の皆様にご喜ばれる価値のある地域密着の保育園を目指しております。</p> <p>3)地域に必要とされるため徹底したサービスを提供し、豊かな暮らしを提供したい。</p> <p>4)お子様には、保育士や友だちとのつながりを広げ、身近な人とのかかわりを大切にします。</p> <p>5)一人ひとりの子どもの気持ちを大切に受け入れを尊重します。</p>
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割
	<p>子どもの個性・特性・発達を理解し、寄り添える人。子どもが大好きな人。自らの経験に奢ることなく向上心のある人。</p> <p>一人ひとりを見極め、応じられる保育者であり、保護者との信頼関係・職員同士の協調が出来る者。</p>
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	<p>子どもが中心の保育。子どもや保護者に寄り添う保育。</p> <p>子どもの安全を第一に体を張って子どもを守れること。小さな変化や危険を感知し、未然に防げること。保護者の悩みや、体調にも気づけること。</p>

〔利用者調査：小規模保育事業〕

調査対象	当園の、調査時点での在籍数は16名でした。兄弟姉妹で通っている子どもがいましたので15世帯を調査対象とし、11世帯から回答を得ました。		
調査方法	利用者調査では、福祉サービス評価推進機構の調査票を使用しました。保護者への調査票の配付は園で実施しました。保護者からの回答は、直接評価機関宛に郵送してもらいました。		
	利用者総数	16名	
	利用者家族総数（世帯）	15世帯	
	共通評価項目による調査対象者数	15名	
	共通評価項目による調査の有効回答者数	11名	
	利用者総数に対する回答者割合（％）	73.3％	

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では「大変満足」が6名（54.5%）「満足」が5名（45.5%）で回答者全員が満足以上と回答しており開園以来保護者からの高い評価が続いています。意見や要望では「0歳児クラスからお世話になっています。0歳から我が子の成長を一緒に見守ってくれて有難うございます。園長先生、担任の先生と保護者の二人三脚でここまで子育てをなんとかやってきました。ミルクしか飲めなかった赤ちゃんが、今ややんちゃに走り回って、毎日『イヤイヤ』をしながらおしゃべりをして、保育園でいっぱい刺激をもらって集団生活に馴染んですごいなと思います。小規模園でなければ、このまま3歳、4歳と成長を見守ってほしい、在籍したいなと思える園です」「お休みの日も『保育園に行きたい』と言うくらい、とても楽しんでいて、先生達も優しくしてくれて、私達にも優しく、我が家は皆保育園が大好きです。今年で通えるのも最後なので寂しいです。3歳以降も見てくれる保育園も同じ系列で作ってほしいくらいです」「保育園に子どもを預かってもらっている時間、仕事や通院などが出来大変お世話になっています」「最初は小規模園なので園庭がない、生徒が少ないなどの心配をしましたが、0歳児には人数が少なく年上の子どもと遊べる環境がとてもよかったと思いました。保育士の方にもとてもよくして頂き、子どもは毎日保育園に行くのが楽しそうです」との声が寄せられました。

利用者調査結果

コメント欄を必ず入力してください

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				

3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	10	1	0	0
回答者の90.9%が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	8	1	0	2
回答者の72.7%が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	9	2	0	0
回答者の81.8%が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	1	0	0
回答者の90.9%が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	0	0	0
1回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	11	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	1	0	2
回答者の72.7%が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	11	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	9	2	0	0
回答者の81.8%が「はい」と回答しています。コメントでは「マニュアル的な対応ですが誠実さは感じられます」との声がありました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	8	1	0	2
回答者の72.7%が「はい」と回答しています。コメントはありませんでした。				

〔組織マネジメント：小規模保育事業〕

I 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No	共通評価項目	
1	カテゴリー1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1（1-1）	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
	評価項目1 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	評価項目2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
○非該当		
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
○非該当		
カテゴリー1の講評		
<p>園の理念や保育方針は入園案内やホームページで明示し内外にわかりやすく伝えていきます</p> <p>入園時に説明する入園案内には保育理念が明示しています。理念は、園での生活を通じ思いやりのある子どもに育てます、とあり、友達とのつながり、地域密着の保育園を目指すことが説明されています。またホームページでは、保育方針として、「園生活を楽しく過ごすあそび、健康、丈夫な体づくり、思いやりのあるところづくり、思いをつたえる表現」を柱として説明しています。職員には契約時に園の考え方を詳しく説明しレビューをおこなっています。利用者には入園案内や重要事項説明書などで、乳児・幼児の最善の利益を考慮することを伝えていきます。</p>		

園長は保育理念の実現に向け、自らの役割と責任を明確にし職員に伝えています

園長はじめ職員の職務内容は運営規定で定めています。規定では「園長は職員及び業務を一元的に管理し指揮命令を行い、園児を全体的に把握し、園務をつかさどる」となっています。保育理念を実践するため、園長は目標をあそび、健康、体づくり、こころ、表現といった保育計画と活動に具体化し率先して遂行しています。また、園長自らクラスの中に入り、職員と共に課題解決に取り組んでいます。このように行動を共にすることで運営管理者として具体的な役割と職責を職員に伝えることでリーダーシップを発揮しています。

重要案件は経営層が意思決定を行い、職員や保護者には説明し理解を図っています

重要案件には園運営に関する決定事項や行政からの通達に対する対応等があり、職員や保護者の意向も確認しつつ決定しています。経営層で協議が必要と判断されるものについて園長は設置者と協議して決定しています。職員の意向の確認が必要な項目は職員会議やミーティングで自由に意見を出してもらい合意をとっています。既決事項は決定経過を職員に説明して同意と協力を得るとともに回覧物は全員から確認印をもらい周知と徹底を図っています。保護者への連絡は広報誌、掲示及び通話、一斉メールで配信をおこない伝え漏れのないようにしています。

2

カテゴリー 2

事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー 1 (2-1)

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目 1

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点 (○○○○○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー 2 (2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目 1

事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点 (●○○)

評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目 2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点 (〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ 2 の講評		
<p>園を取り巻く情報は広く内外から収集し分析して課題の抽出と解決に役立てています</p> <p>園を取り巻く環境の情報は保護者の意見、職員からの情報に加え都及び区役所等から収集しています。保護者からは保護者会等での意見及び第三者評価によるアンケートから収集し、職員からは各種ミーティングや面談を通して意向を把握しています。都及び区役所からは福祉事業全体の動向や区内入園空き情報等を、事業所連絡会や地域の小規模園連絡会からは地域情報等を収集しています。また園が入居しているマンションに立ち寄った関心のある見学者からも感想や意見を聴取しています。これら各方面の情報を収集・分析し課題抽出と解決に役立てています。</p> <p>年度計画は保育目標を意識し、園長と職員が全員参加で策定しています</p> <p>事業所が目指している理念の実現に向け、年度計画を進めています。年度計画は保育理念と保育目標を基本とし、前年度の振り返りや園長と職員との会議から出た課題等を考慮に入れ、職員全員が参加する形で策定しています。計画は保育内容を子どもの目線で考えた実践的な内容にしています。中長期計画の策定では経営的数値など一部は進めており、全体的内容は進行中です。現在園が抱えている園児の募集問題、保育士の資質向上などの課題と解決策は、中長期計画の一環として長期的な検討課題として取り組んでいます。</p> <p>計画は常に進捗状況を把握し、必要に応じ見直しをおこないながら進めています</p> <p>事業所の運営に向け、年間保育計画及び各種行事計画は円滑に推進できるよう工夫をしています。0歳児から2歳児まで年齢別にあそび、健康、体づくり、思いやりのことに関する成長目標は「全体的な計画」で策定し実践しています。計画は毎月の職員ミーティングで進捗状況を確認し、結果を記録に残しています。計画通りに進まなかった案件は報告書で実績内容、うまくいかなかった原因、対策等を記入し、再発防止と改善に務めています。園全体で改善活動を進めることで、より良い事業運営の推進に取り組んでいます。</p>		
3	カテゴリ 3	
経営における社会的責任		
サブカテゴリ 1 (3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
<p>評価項目 1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる</p> <p style="text-align: right;">評点 (〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ 2 (3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況

評価項目1
 利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点（〇〇）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者 に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2
 虐待に対し組織的な防止対策と対応している 評点（〇〇）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互 に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組 織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3（3-3）

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目1
 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点（〇〇）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組ん でいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2
 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをして いる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡 会、施設長会など）に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

職員は守るべき法・規範・倫理を理解し、遵守すべく取り組んでいます
 園では社会人としてまた福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理規定を定め遵守すべく取り組ん でいます。園の運営規定では「子ども・子育て支援法」及び厚生労働省告示の「保育所保育指針」を遵守すること が記載されています。「就業規則」にある服務規律では職員の心得るべき内容が項目別に記載されています。これ らを基本に職員の新規採用時は倫理教育をおこない、採用後は業務ミーティングを通して周知を再確認し認識を新 たにしています。区主催の保育者実務研修で関連テーマがある場合は参加できるようにしています。

利用者の意向や要望を多角的な面から把握し、対応する体制を整えています

入園説明会や保護者会では利用者の意向を把握し、保護者が安心して園児を預けられる体制があることを説明しています。要望・苦情に関しては重要事項説明書で相談窓口を設置し、担当者・連絡方法等を明記していること、第三者委員及び区への相談ができることも伝えていきます。また、玄関には意見箱を設置し意見を述べるができるようにしています。園児の人権擁護及び虐待防止の措置については重要事項説明書で体制を整えていることを記載しており、虐待の発生やその兆候が疑われる場合は、虐待防止マニュアルに基づいて対応することになっています。

園は高層住宅ビルの一角という場所ですが、地域に役立つ取り組みを検討しています

保育理念では「お子様のご家族の皆様には喜ばれる価値のある地域密着の保育園を目指す」ことが明記されています。小規模園連絡会では子どもの保育、子育て支援に関し地域の一員であることを意識して参加しています。ただ園の職員数はまだ不足していること、園は高層住宅ビルの一角にあるため地域との交流が困難であること等の課題があります。しかし園児が散歩する際は地域住民との挨拶や興味のあるお店への立ち寄り交流を深めています。今後は専門職の知識を活かした活動ができるよう検討しています。

4

カテゴリー4

リスクマネジメント

サブカテゴリー1 (4-1)

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

評価項目1

事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点 (〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリー2 (4-2)

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

評価項目1

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点 (〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当

●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	
カテゴリ-4の講評			
<p>園の運営に対するリスクの対応に向け各種マニュアルを整備しています</p> <p>園の運営を阻害する恐れのあるリスクに対してはそれぞれ対応を決めて進めています。阻害要因には各種感染症、地震・火災等の自然災害、不審者の侵入の恐れ、衛生・食物関連リスクがあります。感染症は行政のガイドライン及び区の通達に沿って対応したマニュアルの作成と改訂を進めています。その他地震・火災に対する防災マニュアル、不審者対策マニュアル、衛生管理、食物アレルギーのマニュアルなど整備しています。マニュアルは常に改訂と改善をおこない、充実した内容になっています。</p> <p>園の安全な運用を確保するため、事業継続計画を策定し園内部で周知に努めています</p> <p>園の安全かつ安定した運営に向け、園では事業継続計画（BCP）を策定しています。BCPは自然災害や感染症の発生、及び不審者が侵入したケース等の緊急事態への対応策を定めています。内容として避難方法、連絡先の一覧、日頃から準備すべき物などがありますが、何よりも園児の安全確保を最優先にすることを基本としています。BCPは職員、利用者、関係機関などに周知し理解して対応出来るよう研修や避難訓練を通して理解を深めています。特に避難訓練は毎月引渡し訓練、不審者訓練を実施しており保護者からも好評を得ています。</p> <p>園の情報管理を適切に行い収集・整理・保管・活用に関する管理方法を定めています</p> <p>園が扱う情報には開示・周知して活用すべき内容と特定使用以外は機密保持すべき内容があります。職員が活用すべき情報は園内で各自がパスワードを持ち、いつでも情報端末を通して必要な時に見られるようにしています。重要書類で特に非開示が求められる情報は、紙媒体の場合は施錠した書庫に保管し、電子データの場合は園長専用パソコンに保管しています。個人情報は個人情報保護法に基づき、「個人情報保護マニュアル」で管理し、個人情報の種類、管理方法、第三者への提供に制限をかけることが記載され、守秘義務を守る手順が設定されています。</p>			
5	カテゴリ-5		
	職員と組織の能力向上		
	サブカテゴリ-1（5-1）		
	事業所が目指している経営・サービスを実現する 人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	サブカテゴリ-毎の 標準項目実施状況	
	<p>評価項目 1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点（○○）</p>		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
	<p>評価項目 2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点（●●）</p>		
	評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○非該当	
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当	
<p>評価項目 3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点（○●●○）</p>			
評価	標準項目		

●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目 4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点（〇〇〇〇）		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー 2（5-2）		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
評価項目 1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点（〇〇〇）		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー 5 の講評		
必要な人材は多方面に募集をかけ、面接では求める人材像を明確にして採用しています 職員の採用に当たっては求める人材像を明確にし、保育の専門紹介サイト、ハローワーク、ホームページの求人情報欄等を活用して募集をかけています。求める人材は子どもに対して「好き」じゃなくて「大好き」、保育士と子どもの二つの目線でみることができる、子どもに好かれる元気な保育士を掲げています。採用に当たっては、人柄を重視し、笑顔があること、協調性があることを採用の基本方針にし、採用後に技術を教えています。採用面談ではこれらの点を確認するとともに採用後の育成の進め方と仕事の内容についても説明しています。		
園が目指す人材像を踏まえ職員の定着と育成に取り組んでいます 園が目指す保育理念の実現に向け、機会を捉え職員一人ひとりの確かな定着とキャリアアップの重要性を説明しています。職員の定着は園の運営の基盤となるもので特に新入職員には期待と自覚を促しています。育成に向けての研修は日常のOJT研修に加え、区主催の年間研修予定や年齢別担任研修などがあり、積極的に参加させてキャリアアップを図っています。今後は職員の希望を聞き長期的な展望を描いた個人別の育成計画を作成することを考えています。現在各職員が受講した研修は研修報告書を作成し、園長が個人別ファイルで管理しています。		

職員の定着と意欲の向上をとおしてチームワークを高め組織力の発揮に取り組んでいます

職員の定着と意欲の向上に向け、職員間の良好な人間関係の構築と継続して働き続けられる職場づくりに取り組んでいます。健康面では定期的な健康診断の実施、勤務体系では早番と遅番の設定と週間勤務時間のシフト管理、休暇では夏季休暇や有給休暇の取得の推奨などに取り組んでおり、職員が安心して働ける職場環境を目指しています。また園児の水浴びや散歩などでは職員間で協力してチームワークを発揮しています。一方外部研修で学んだことはミーティングで報告しあうなど知識の共有を図ることで組織の一体感を醸成できるように取り組んでいます。

7

カテゴリー 7

事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー 1 (7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目 1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている (その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動 (評価機関によるまとめ)

〔課題・目標〕

開園後まる 4 年が経過し、採用した職員の一部が退職するなどの問題もありましたが、2024 年の退職者は 1 名のみで現在職員は 6 名と安定してきました。しかし中長期的にはまだ安定した園運営になっていない部分も見られます。よって目標として、「入職後 3～4 か月での退職者をなくし、長期安定した運営を行うこと」としました。

〔取り組み〕

働きやすい職場を目指し風土改革を進めました。具体的には園長の職員への丁寧な説明や姿勢の改善、職員間の自由闊達な話し合いの推進等を進め、風通しの良い雰囲気・職場づくりを目指しました。新規職員の採用も協調性やコミュニケーションを大事にする人材を優先するようにしました。運営面では柔軟な勤務体系の実施、有給休暇の取得拡大など働きやすい環境の整備に取り組んできました。

〔取り組みの結果〕 4 月より新年度が始まるため、3 月には退職希望が出がちですが、今回は退職者の希望はいないとのことです。

〔振り返り・今後の方向性〕

設置者及び園長による採用面談では求める職員の人材像を明確にし、園の保育理念と活動内容に理解できる職員の採用に心がけています。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p>●具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>●目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった (目標設定を行っていなかった場合も含む) ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>●次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目 1 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

〔講評〕

開園後 5 年目に入り、退職者も徐々に減っている傾向にあります。この理由として園長を中心にした職場の風土改革の取り組みによって効果が出ていると考えられます。経営を今以上に安定させるためには、現在進めている風土改革、トップの姿勢、運営面の見直しを続けることも大事です。そのためには、経営者である設置者と園長の考え方と姿勢が大事だと思います。設置者と園長は園の経営に対する考えを都度、職員に納得いくように説明することが大事です。保育理念や保育目標を自らの言葉で語り、行動することが求められます。経営層の分担を明確にするこ

とも必要と思われます。役割を明確にした上でお互いに意志の疎通を密にし、協力体制を構築することが大切です。現在、保育士を含む人間関係では、ていねいな言葉遣いや人間味のある温かな職場に成長しました。この良い職場環境を継続してさらに良い園に育ててほしいと思います。

評価項目 2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

〔課題・目標〕

当園は0, 1, 2歳児の保育をおこなう小規模認可保育園で定員は0歳児3名、1歳児6名、2歳児7名です。課題はこのまま少子化が進めば園児の入園数が新学期に定員に満たない可能性が考えられます。よって目標を「安定した園児の定員確保により、園の運営を安定化させる」としました。

〔取り組み〕

園の魅力を入園希望者に知ってもらい、この園に入園したい、という気持ちを強く持ってもらえるよう工夫しています。具体的には園への見学は自由にできるよう配慮しています。開園時間内であればできるだけ希望に沿うようにしています。また卒園児が時が経って訪問した際には昔を思い出し、一緒に遊んだりして楽しい時間を持つようにしています。これらを通して卒園児の口コミによる次の入園希望者の拡大につなげるようにしています。さらに園児の弟や妹も預けてもらえるよう働きかけをしています。

〔取り組みの結果〕

2025年3月時点の在籍園児数は定員に達しています。しかし4月以降、保護者の転勤のほか、転園も考えられるため引き続き当園に預けてもらえるよう魅力ある園づくりに努めています。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目 2 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

〔講評〕

日本の少子化問題は深刻な社会的問題となっており、出生数が70万人を下回る現況下では、保育園の経営者にとって園児を確保することは大きな課題です。出生数の減少は保育園の利用者数を減らし、経営の困難さを増加させ、保育士の確保と質の向上にも大きな影響を与えています。

当園はビルの中にあるため安全性は高いと考えられます。また、最寄駅から5分という恵まれた立地条件にあります。しかしこういった好条件はあまり外には伝えられてはいません。もっと近隣住民や通勤者にわかるような方法を検討することも良いと思われます。又当園の特徴を前面に出す方法も考えられます。一般に子どもの基本的性格が形成されるのは3歳までといわれ、当園はその重要な時期を担っています。そのため、3歳までの子どもが園の環境や活動によってどう自己肯定感を持てるようになったかを強調することで、当園の特徴を前面に出し他園との差別化を図ることもできるのではないのでしょうか。いずれにしても、「安定した園児の定員確保により園の運営を安定化させる」目標を達成させるには、中長期の計画を作成し、年度毎に実践すべき項目を決めて実行されることをお勧めします。

〔サービス分析：小規模保育事業〕

II サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No	共通評価項目		
1	サービス情報の提供		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点（〇〇〇〇）
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
	サブカテゴリー1の講評		
	<p>園のホームページにより保育方針や1日の流れ、年間行事などを発信しています</p> <p>今年度リニューアルした園のホームページには「一人一人のびのびとその子らしさを引き出します」「遊びを通じた学びを促進します」「子どもの声に耳を傾けさまざまな体験ができるよう支えます」などの保育方針が示されています。1日の流れと年間行事をたくさんの写真とともに掲載し、園生活のイメージが描けるようになっています。毎日の給食の写真、毎月の食育活動の写真も見ることができます。小規模認可保育園という形態はまだよく知られていないため、区の担当課を通じて入園申込みをすることを伝え、区ホームページにリンクを張っています。</p> <p>区の公式ホームページにある小規模保育施設紹介欄に園の情報が掲載されています</p> <p>区役所の担当課とは日常的に情報をやりとりしています。区ホームページの施設紹介欄・小規模保育には、当園の基本情報を写真入りでまとめたページが掲載されています。また毎年10月に発行する「保育施設利用申込案内」にも園の情報や所在地マップが掲載され、この案内はホームページからダウンロードできるほか、担当課や福祉事務所等で配布されています。内閣府・厚労省等のサイト「子ども子育て支援情報システム（ここdeサーチ）」に園の情報が掲載されているため、遠方から転居する人も園の存在を知ることができます。</p> <p>見学希望者を受入れて、子どもたちがのびのびと遊ぶ様子を見てもらっています</p> <p>区担当課は保護者に対し、入園申込をする前に見学をするよう勧めています。園では電話かメールで日程を調整して、午睡とおやつが終わった午後4時頃に来園してもらっています。見学者は父母と子どもの3人で訪れる例が多く、園長が案内と説明をしています。室内で子どもたちが遊ぶ様子を見た見学者は「人見知りせずに明るく挨拶してくれる」「少人数で手厚く保育されている」と感想を述べています。駅から近く、ビルの1階がスーパーであることも好印象を与えています。見学者から夜泣きや離乳食について相談を受けた場合は丁寧に助言しています。</p>		
	2	サブカテゴリー2	
サービスの開始・終了時の対応		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点（〇〇〇）	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	

	し		
	●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目 2			
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている			評点 (○○○)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー 2 の講評			
<p>新入園児の保護者には事前説明会で園のルールや持ち物について丁寧に説明しています</p> <p>2月には区役所の担当課から新年度4月の入園が決まった子どもたちの名簿と書類が届きます。園では事前説明会を開いて契約書や重要事項説明書の項目を一つ一つ読み上げて、契約時間や保育料金、緊急時対応などを説明し、同意を得たうえで署名捺印を受けています。園生活については「入園案内」により、登園・降園のルールや連絡帳、給食、薬、病気について話しています。また「毎日保育園で使うもののプリントを渡し、フェイスタオルを二つ折りにしてゴムを通すエプロンの作り方などを絵で示して、不安なく入園準備ができるようにしています。</p> <p>入園による子どものストレスを軽減するため短時間からの慣らし保育を実施しています</p> <p>入園時に保護者が提出した家族状況、入園までの生活状況、通園経路の地図や、健康診断表等の書類は、個別の児童票にファイルして、支援に役立つ基礎情報としています。入園という環境変化で子どもの心身にストレスがかからないように、短時間から始める慣らし保育を実施しています。生活リズムを整えるために個々に決めた登園時間に来てもらい、1時間ほど保育室で過ごしてみても子どもの様子を見ながら時間を延ばして通常の保育時間へと移行します。ゆっくり慣れていくことを希望する保護者が多く、慣らし期間を1ヵ月ほどかける例が増えています。</p> <p>3歳からの通園先を考える保護者の相談を受け親子に合った園に移る支援をしています</p> <p>0歳～2歳児までの園であるため、子どもたちは次の園へ移ることになります。年度末にはみんなでお別れ会を開き、卒園する子には職員がメッセージを書いたカードや記念品を贈っています。転居などで年度途中で一人で退園する子にも同じようにカード等を贈り、励まして送りだしています。3歳児からの通園先は、預かり保育のある幼稚園や、認可保育園などです。子どもの通園先に悩む保護者の相談を受けて「少人数保育を続けさせたい」などの要望に合った選択ができるよう助言しています。保護者には卒園後も何かあれば相談に応じることを伝えています。</p>			
3	サブカテゴリー 3		
	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
評価項目 1			
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している			評点 (○○○)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当

●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目 2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点 (○○○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めただうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目 3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点 (○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目 4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している 評点 (○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー 3 の講評		
<p>「全体的な計画」を基に各年齢児の年・月・週の指導計画を立て、個別月案を作成しています</p> <p>「全体的な計画」を基に各年齢児の年間指導計画、月案、週案を立てています。月案ではクラスとしての目標を立てるとともに、個々の子どもに「食育」「予想される子どもの姿」「保育者の援助と配慮」を記入した個別月案を作成しています。年間指導計画は4つの期ごとに、月案・週案は次の計画を立てる時に、前回の反省と評価をして次に活かしています。保護者には、保護者会や園だよりで指導計画を伝えています。例えば園だより11月号には、2歳児クラスの今月の目標として「秋の自然に触れ、季節の変化に関心を持ちながら散歩を楽しむ」とあります。</p> <p>毎日の活動は保育日誌に、個々の子どもが成長する姿は発達経過記録に記入しています</p> <p>保育日誌には、その日のクラス全体の活動を記入する欄と、個々の子どもの様子を書く個別欄があります。個別欄には、その日の子どもの特徴的な姿やエピソードがわかる文章が書かれています。また一人の子どもが成長していく姿を、0歳児は毎月、1～2歳児は2ヵ月に1回、発達経過記録に記入し児童票にファイルしています。「リズムに合わせて手・足・体を動かす」「ママ・パパなど身近な単語を話すようになる」など成長の指標に達した時期を記し、文章によるまとめを記入して、在園中の記録が一か所にまとまるようになっています。</p>		

日々の健康記録や職員のミーティングによって子どもの情報を職員間で共有しています

クラス担当になった職員は予め児童票等を読みこみ、子どもの情報を把握したうえで保育にあたっています。各指導計画や保育日誌などの書類は、保育園業務支援システムに入力する方式を取っているため、職員はタブレットで指導計画を確認したり子どもたちに関する記録を読んだりすることができます。保育室には毎日紙媒体の健康記録を置き、個々の子どもの体温、睡眠、排泄、保護者との連絡等を記入して勤務時間の異なる職員の間で情報共有しています。クラスや全体でのミーティングでは、子どもや保護者の状況をより深く話し合っています。

5

サブカテゴリー5

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点 (〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点 (〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリー5の講評

子どもと保護者のプライバシーを守ることを入園時に約束しています

入園時に交わす契約書には、秘密保持の項目があり「保育を提供する上で知り得た乳幼児、保護者及びその家族等に関する秘密を第三者に漏らしません」と明記しています。保護者と個人面談をする時などは、他の人に聞こえないように配慮しています。職員にも、他の保護者に聞こえる場所で子どもや保護者の事情を話題にしないように徹底しています。また子どもの名前が外部にさらされることのないように、散歩時にかぶる園の帽子には名前を書かず、それぞれ違うワッペンを付けて歩いています。

日常保育の中で羞恥心に配慮しオムツ替えや着替えなどは決まった場所を使っています

日常保育の中で子どもの羞恥心に配慮し、オムツ替えや着替えは、人目に触れない場所ですべてしています。保育室の脇に引き戸で出入りできる別室があり、衣服の着脱を伴う支援をする時に役立てています。オムツを替えるときは、一人ずつに「オムツ行くよ」と声をかけて別室に連れていきます。常に子ども一人ひとりに寄り添って、その個性・性格・特性に配慮した保育を心がけています。家庭的で親しみやすい雰囲気を作りながら子どもを尊重する姿勢を持ち、呼び捨てやあだ名呼びをせず、名前に「ちゃん」や「くん」「さん」を付けた呼び方をしています。

児童虐待を防止するため、親子ともに温かい支えと適切な支援をする姿勢を取っています

児童虐待防止や育児困難家庭支援については、職員が受けた研修内容や区役所からの通知などを職員間で共有して理解を深めています。園の虐待対応マニュアルには「虐待をしている親自身が悩み、やめたいと望んでいる場合も多く、親子ともに温かい支えと適切な支援を行っていくことが必要である」とあり、これを園の姿勢としています。区による虐待予防チェックシートが届いており、子どものケガ、表情、衛生面、連絡のない遅刻など、虐待の兆候を見逃さないようにしています。原因不明のケガやアザなどがあれば職員全員で見守る体制を取っています。

6	サブカテゴリー6	
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点 (〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
	●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点 (〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○非該当	
サブカテゴリー6の講評		
<p>区役所が保育園を対象に作成したマニュアル類を基本にして独自の手順を定めています</p> <p>区は主に区立保育園を対象にしたマニュアル類を作成し、区内の保育施設に提供しています。食物アレルギー対応、発達支援、危機管理、衛生管理など多岐にわたるマニュアルがあり、園ではそれらをファイルして基本的な手順書としています。また区内で長く運営してきた姉妹園のマニュアルを基に、区のマニュアルと組み合わせ独自マニュアルを作成しています。子ども家庭庁による「事故防止及び事故発生時のガイドライン」「虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」も園で活用しています。</p> <p>お散歩や水遊びなど日常業務に直結した手順書は職員全員に回覧・配付しています</p> <p>職員には日常業務に直結したマニュアルを回覧・配付して、業務の標準化を図っています。お散歩マニュアルには、公園への経路と注意事項を記入した園周辺地図があり、必ずそのコースを通ることにしています。水遊びマニュアルでは、遊びに加わらず監視だけをする職員を配置するなど、区の基準を守って安全に活動する手順が定められています。区の保育園担当課からの定期的訪問時に保育現場を観察してもらって助言を受けることも、仕事の質を一定水準以上に維持することに繋がっています。</p> <p>コロナ禍の時期に決めた手順のうち何を継続し何を変更するかを検討し見直しています</p> <p>園の開設はコロナ禍の時期であったため、区からは感染防止のための詳細な文書が届き、職員は玩具だけでなくドアノブからパソコンまで消毒する手順を習得しました。現在も感染防止に必要な手順を守っていますが、コロナの5類移行に伴い、これまでのように園で預かれる子どもの体温を全員一律に適用するのではなく、その子の平熱よりも1℃以上高いときに保護者に連絡する方法に変更しました。状況の変化に応じて随時手順を改善するほか、園全体に関わる「入園案内」などの文書や、様々な保育書類については年度単位で見直しをおこなって改訂しています。</p>		

III サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

サブカテゴリー4																				
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況																			
1	<p>評価項目1</p> <p>子ども一人ひとりの発達状態に応じた保育を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点（○○○○○）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
評価	標準項目																			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当																		
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当																		
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当																		
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																		
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当																		
評価項目1の講評																				
<p>子どもたちが主体的に遊べるように自分で玩具を出し入れできる環境設定をしています</p> <p>活発に動くようになった0歳児クラスの子どもたちは、1歳～2歳児クラスと合同で遊んでいます。子どもたちの手が届く棚にカゴを置き、遊びたい玩具を自由に選べるようにしています。また、カゴには2種類のブロック、紐通し、ぬいぐるみなど玩具の写真を貼り、自分で片付けができるように工夫されています。天井には子どもたちの作品をすぐに飾れるようになっていて、自分や友だちが作った物を見て喜びを味わうことができます。職員は季節感のある壁面装飾を施し、子どもたちが保育室を楽しく感じられるようにしています。</p> <p>月齢・年齢の異なる子どもたちが一緒に活動することでお互いに刺激を受けています</p> <p>月齢・年齢の異なる子どもたちが一緒に活動する合同保育を毎日実施しています。児童遊園で、2歳児が砂場や滑り台で遊んだり、ダンゴ虫を捕まえたりしていると、0歳児、1歳児もそばで興味を示しています。ある日の室内遊びでは、新聞紙を破いてばらまき、紙片をビニール袋の中に集めて、ボールを作る遊びをしました。ちぎった新聞紙を集める時に、ブルドーザー式に集めるやりかたを保育者がやって見せると、2歳児がそれにならい、1歳児、0歳児も集めることができます。異年齢の子どもたちが共に過ごすことで、お互いに刺激を受けています。</p> <p>皆と一緒に活動に加わらない子には、ゆっくりと興味を持てるよう見守っています</p> <p>皆と一緒に行動に加わろうとしない子には、無理じいをせず、声をかけ寄り添いながら接しています。活動力のある子どもだけに働きかけるのではなく、参加していない子どもに対して「できない」と決めつけず、ゆっくりと興味を持てるように見守っています。毎日、朝の会と体操などの時間を持ち、音楽に合わせて楽しく体を動かしたりしています。オムツ替えを待っている間には、絵本を読んだりして静かに順番を待てるようにしています。発達が気になる子や配慮の必要な子については、区の専門機関と連携し助言を基に情報を共有して保育しています。</p>																				
2	<p>評価項目2</p> <p>子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点（○○○○）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当	●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援	○非該当										
評価	標準項目																			
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当																		
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援	○非該当																		

し	助している	
●あり ○なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登・降園時には保護者に声をかけ子どもの様子をていねいに伝えあっています

受け入れ時には体温、顔色など視診をおこない、保護者から体調面など聞き取りをしています。連絡帳には、検温、食事、排便、機嫌、就寝、起床時間、お迎え時間などが詳細に記載され、子どもの生活リズムを把握できるようになっています。生活リズムを整えるには、就寝時間が大切であることを保護者にアドバイスすることもあります。引き継ぎのため、保育室に置いた「健康記録」には、検温、午睡時間、排泄、連絡事項、0歳児はミルクを飲んだ時間や量、排便の硬さなどを記入して職員同士で共有し、子どもの生活リズムに配慮した保育をしています。

デイリープログラムに沿った生活の中で基本的な生活習慣が身につくよう配慮しています

食事や着替え、トイレなど基本的な生活習慣が身につくよう、無理なくていねいにすすめています。給食はテーブルと椅子が身長と合うように配慮し椅子を引いてテーブルに向き合わせ、正しい姿勢で食事できるように声をかけています。友だちと食卓を囲み、保育者が声かけをするうちに、スプーンを使って食べるようになってきます。トイレトレーニングでは、強制せずに自らトイレに座れるように促しています。また2歳児は保護者から下着を持参してもらいパンツで生活しています。身の自立につながる事ができた時は褒めて意欲を引き出しています。

体調や活動内容に合わせて子どもたちが十分に睡眠や休息がとれるように工夫しています

月齢・年齢や、家庭での睡眠時間、その日の活動内容、体調などに配慮しながら、どの子も適切な睡眠がとれるようにしています。午睡時にはオルゴール音楽を流し、子どもたちが落ちついた気持ちで入眠できるようにしています。感染予防のため子どもの頭と足を互い違いにしたり、落下防止のため棚の方向に頭を向けないようにするなど、子どもの安全に充分配慮しています。保育室には空気清浄機を設置して室温、湿度に配慮し、室内は子どもの顔色や表情が分かる明るさにするなど、睡眠時の環境に気を配っています。

3	評価項目3		評点 (○○○○○○)
	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当	
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当	

子どもたちの興味、関心を大切にし、自主的・自発的に遊びこめるよう配慮しています

子どもたちが好きな乗り物、ままごと、ブロックなど十分な量の玩具を用意し、それぞれが遊びこめる環境設定をしています。電車、動物、植物などの図鑑の表紙や写真を壁に貼ると、子どもたちは興味を持って見えています。たくさん絵本を用意し、保育場面を切り替える時などに読み聞かせをしています。玄関にカエルや昆虫、孵化する卵などの模型を置いて、登園時に入室を渋っている子には「カエルさんにご飯をあげようか」と声をかけて、自分から入ってくるようにしています。保育者は個性や発達に見合った遊びができるように常に工夫をしています。

玩具の貸し借りなどにより子どもが言葉でコミュニケーションを取れるようにしています

言葉が発達する時期に入った子どもたちは友だちとの関わりが多くなり、うれしいことがあると「イエイ」と子ども同士でハイタッチしています。0歳児には、玩具の貸し借りを言葉によるコミュニケーションのきっかけにして、「どうぞ」と友だちに玩具を渡したり、両手を重ねて「貸して」と伝えられるように働きかけをしています。また手遊びや歌、絵本で触れる言葉によって、子どもたちの言葉に対する興味を育てています。体操や音楽遊び、ごっこ遊び、色々な素材による製作など、子どもたちがさまざまな表現をして楽しめるようにしています。

天気の良い日には毎日散歩に出かけ、虫や花を観察して季節の変化を感じています

園はビルが密集した地域にありますが、積極的に戸外に出て、自然に接することができる公園で遊んでいます。虫や花を見たり落ち葉を拾って季節を感じています。見つけたダンゴ虫を一人ずつ触ったりして、順番を待つルールを覚えています。散歩中に電車や車を見かけると、子どもたちは目を輝かせて友だちと話しています。ビルの中の保育園であるため、天気の悪い日も濡れずに2階のテラスを散歩して、雨の匂いを感じ、雨の降る様子を観察して、五感を大切に体験を積み重ねています。夏には玄関に水を入れたタライを置いて、水遊びをしています。

4

評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点 (○○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

夏祭りなどの行事は、子どもたちが親と一緒に楽しめる内容を工夫して開催しています

季節行事を実施する前には、関連の歌や製作、室内装飾などで子どもたちが期待をふくらませるようにしています。7月の夏祭りに向けて日常の中で盆踊りの曲を流し、振付を覚えて練習を楽しみました。当日は子どもたちが力を合わせて山車を引っ張り、保護者も参加して、山車のまわりで盆踊りをしています。室内を縁日風にしつらえ、ひもを引っ張るとミニタオルが入ったボール型の透明カプセルが出てくるコーナー、日頃から親しんでいる絵本のダルマに目を付けてお面を作るコーナー、手作りのポテトフライが出される店などを親子で回って楽しみました。

かけっこなど運動会の練習に取り組み、子どもたちが達成感を得られるようにしています

運動会は、子どもたちの発達に合った内容を企画しています。0歳児は親子競技、1歳児はかけっこを計画していましたが、1歳児が2歳児の玉入れの真似をしていたので、カゴを床に置いてボールを入れる競技を加えました。2歳児はかけっこと本物の玉入れ、トンネルをくぐりケンケンしたりするサーキット遊びを披露し、園では一番の年長児としての成長を感じさせました。保護者は床に膝をついて、子どもたちと同じ玉入れ競技をしました。子どもたちが楽しんで運動会の練習に取り組み、自信をもつてのびのびと参加できるように支援しています。

年度初めに年間行事予定表を配付して、保護者が行事に参加できるように配慮しています

保護者には年度初めに年間予定表を配布し、保護者が都合をつけられるように配慮しています。大きな行事の際は、前もって日時、場所、用意するものや内容などを分かりやすく書いたお手紙を渡しています。園だよりには、七夕、七五三など日本の伝統行事の由来を書いて、親子で話題にできるようにしています。登降園時の会話で運動会に向けた子どもの練習の様子を伝え、行事に関心を持ってもらっています。行事に取組んだ後には、クラスや子どもの雰囲気伝える記事を載せた園だよりを出して、行事を通して子どもたちが成長している姿を伝えています。

5 評価項目 5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点 (〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目 5 の講評

子どもたちはどの職員とも親しい関係にあり安心して合同保育の時間を過ごしています

朝は7時30分から9時30分まで、夕方も16時から18時30分まで合同保育をして、穏やかに遊べるように配慮しています。日々合同保育をおこなっているので、小さい子は大きい子の輪に入れてもらって遊びを覚え、大きい子は小さい子のお世話をしながら優しく接するようになっていきます。また子どもたちと職員との信頼関係ができていたため、家庭的な雰囲気の中で過ごしています。夏は水分補給を欠かさず冬は加湿器を使うなど、健康で快適に過ごせるようにしています。

夕方には普段と違う遊びを楽しみ、お迎えの保護者に子どもの様子を伝えています

0歳、1歳、2歳児は合同保育をおこなっているので、年上の子どもたちと接することで刺激を受け、兄弟のように楽しく遊びながらお迎えを待つことができます。夕方の時間には、普段使わないブロックやままごとの道具などを出して、昼間と違った遊びをして楽しんでいます。子どもの数が少なくなるとパズルを出して机上遊びをしたり、寂しかった子どもは抱っこして1対1で絵本の読み聞かせをしたりして、不安なく過ごせるように心がけています。お迎えに来た保護者には、時間が許す限り1日の様子をていねいに伝えるようにしています。

6 評価項目 6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点 (〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○非該当

評価項目 6 の講評

野菜が多く栄養バランスの取れた給食を提供し、子どもたちは楽しく食事しています

区役所の担当部局から送られてくる献立表を基にして、野菜が多く栄養バランスの取れた給食とおやつを提供しています。安全な国産の食材を使用し、行事食では人参、チーズ、ハムを星形や花型に型抜きをするなど、目でも楽しめる工夫をしています。保護者がタオルで手作りしたエプロンを使い、着席位置も決まっているため、安心して食事できます。テーブルをL字型に配置して職員が中に入り、子どもたちの正面から介助できるようにしています。毎日の給食のカラー写真が園ホームページに掲載され、保護者はスマートフォンなどで見ることができます。

保護者と相談しながら離乳食を進め、宗教などによる特定の食材除去にも対応しています

離乳食は、家庭での進み具合を確認した上で、月齢や発達状態を見ながら進めています。園では後期食（刻み食）の提供から始め、保護者と相談しながら、具材の大きさや硬さを調整しています。初めての食材は、家庭で何回か食べてもらい何事もなければ提供することにしてあります。宗教など文化の違いのある子どもには、アレルギー児と同じ対応で特定の食材除去をしています。保護者には毎月献立表の除去内容を確認してもらったうえで除去食を提供しています。色の違う専用のトレイと食器を使い、配膳時と提供時に複数の職員で確認しています。

毎月1つの野菜と親しむ食育活動を実践し、子どもたちは「食」への関心を深めています

0歳から2歳児までの園ですが、食育計画を立てて毎月積極的に食育活動を実践しています。5月はアスパラ、6月はキャベツ、7月はスイカと、1つの食材を用意し、子どもたちは見たり触ったり匂いをかいだりして、食べ物に興味を持つようになっていきます。1月のレンコンの時には、レンコンの出る手遊びをしてから、触って硬さを知ったり、切る時の音に耳をすましました。またそれぞれの興味で輪切りレンコンの穴に指を入れたり、穴から覗いたりしました。園では、区が推奨する「一口目は野菜から」を実践し、給食は野菜から食べるようにしています。

7

評価項目 7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点 (○○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○非該当

評価項目 7 の講評

子どもたちが自ら病気やケガを防ぐことができるよう日常の中で援助しています

子どもたちの体温を確認するため登園前に検温をしてきてもらい、園内では12時30分、15時30分と、3回の検温チェックをしています。検温は病気を発見するために大事なことと考えています。手を洗う時には、必ず一人ひとりに保育者がついて手洗いの指導をしています。絵本を通して散歩のルールを知らせ、交通ルールを守り車に気をつけて歩く習慣をつけています。また健康についても絵本を使って子どもたちに関心を持たせています。毎日の朝の体操をして、動きの中で体幹を鍛えバランス感覚を養い、転倒によるケガの予防に努めています。

園の嘱託医による健康診断を実施し助言を受けながら子どもたちの健康管理をしています

嘱託による健康診断を0歳児は年4回、1歳、2歳児は、年2回実施しています。園では毎月、身長・体重計測をおこない結果を連絡帳の最後のページで保護者に知らせています。家庭のかかりつけ医が園の嘱託医と同じである園児が多いため、嘱託医と連携して、保護者から子どもの健康面での心配事で相談を受けた場合や、離乳食の進め方など子どもの食事についての相談にも助言を得ています。また保育中の体調不良やケガなどの場合も、すぐに嘱託医に連絡し助言をもらうことができ、子どもたちの健康管理に充実した支援体制が用意されています。

保護者に感染症等の情報を知らせ、午睡時には乳幼児突然死症候群の予防に努めています

夏は、0歳児は沐浴、1歳児、2歳児はシャワーをして汗を流し、子どもたちが常に気持ちよく過ごせるように配慮しています。保護者には区から感染症の注意喚起の知らせが来た時は、保護者にも配布しています。園内に感染症が出た時は、病名や症状を玄関に掲示しています。乳幼児突然死症候群を防止するため、午睡時に0歳児は5分、1歳、2歳児は10分おきに呼吸や顔色を確認し、寝ている顔の方向を矢印でチェック表に記入し、うつぶせ寝の姿勢に直しています。0歳児は、肌着の上からお腹にセンサーを付け、二重チェック体制を敷いています。

8	評価項目 8		評点 (〇〇〇〇〇)
	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目 8 の講評			
<p>保護者の就労状況や家庭事情に配慮しお迎えの遅れなどに柔軟な対応をしています</p> <p>個々の家庭の就労事情や家庭の事情を理解し、保護者が安心して子育てができるように配慮しています。保育時間帯や保護者の仕事休み日の受け入れなど、可能な限り柔軟に対応しています。使用したオムツの持ち帰りがなく園で処分していることも保護者に好評です。子どもの体調に変化があったときは、勤務先の遠い保護者には早めに連絡を入れて、職場から移動しやすくしています。電車の遅延などによりお迎えが遅れたりした日は、保護者の気持ちになって子どもと一緒に待つようにしています。また送迎時にはじっくりと話を聞いて保護者に寄り添っています。</p> <p>親同士の交流の場として保護者会を開き子どもたちについて話をしています</p> <p>保護者会は年2回、5月、2月に開催しています。年度初めの保護者会では、園長から職員紹介があり園の方針や年間行事予定、離乳食の進め方などを話しています。担任からは、子どもの様子や年齢に合った育ちなどの資料を保護者に渡し、子育ての知識を共有しています。保護者が自由に発言し交流できる時間を設けていることも、孤立しがちな親たちが友だちを作れるきっかけになっています。また園だよりやお知らせを配布し、ホームページに子どもたちの製作を載せたりして、子どもたちが園での活動する様子を保護者に知ってもらえるようにしています。</p> <p>連絡帳の記述など日常のコミュニケーションが保護者の養育力向上につながっています</p> <p>連絡帳に園での様子を詳しく書いているので、保護者からも子育ての悩みを相談する文章が書きこまれてきます。保護者から「イヤイヤ期で困っています」と書いてこられた時は、子どもに直接「ママが困っていたよ」と伝えると翌日保護者から「助かりました」と感謝の言葉ももらったこともあります。玩具のやり取りで「貸して、どうぞ」が言えない悩みなどは、保護者に園での取り組みを話しています。職員との日々のやりとりが、保護者の子育ての励ましになり、養育力を向上させることにつながっています。</p>			
9	評価項目 9		評点 (〇〇)
	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	

地元の公共施設や園のあるビルの玄関ホール、自然のある公園等を保育に活用しています

天気の良い日は園のある高層ビルの近くの公園にお散歩に出かけています。散歩途中で電車やトラックを見て手を振り歓声をあげています。また公共施設の広場で楽しくシャボン玉をしたりしています。近くのビルの玄関には「ご自由に水槽をご覧ください」とお誘いの掲示があり、子どもたちは水槽の熱帯魚を真剣に観察をして、園に帰ってから図鑑を出して「どの魚だったかな」と確かめています。商業施設の多い地域ですが、さまざまな地域資源を活用しています。

子どもたちは、マンションの警備員さんや商店街の人々とふれあう機会を持っています

子どもたちが散歩に出かける時は、マンションの警備員さんや商店街のおじさんやおばさんたちと挨拶を交わし、おなじみの存在になっています。八百屋さんの前を通ると、毎月の食育で扱った野菜が並んでいるので、友だち同士で立ち止まって「何が好き」と話をしている様子がみられます。季節の野菜を指さして、お店の人に「レンコンだね」と話しかけたりしています。職員も子どもたちも、公園で他の保育園の子どもたちに会うと率先して挨拶の声をかけ、園外の人々とふれあう機会を持っています。

〔事業者が特に力を入れている取り組み：小規模保育事業〕

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している
タイトル①	職員はクラスと全体のミーティング等で子どもの情報を共有し保育にあたっています	
内容①	クラス担任になった職員は予め児童票等を読みこみ、子どもの情報を把握したうえで保育にあたっています。保育室に置かれた健康記録には、子どもの体温や睡眠、食事、保護者との連絡などを記入し、勤務時間の異なる職員が情報を共有できるようにしています。複数のクラス担任間でのミーティングで子どもの状況を話し合い、全体ミーティングでは他のクラスの子の情報も把握しています。これらを通じて、職員は自分の目だけでなく他の保育者の視点も加えて子どもの姿を知ることができ、全職員が園児全員を知っている状態を作り出しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している
タイトル②	園で保管している多様な書類を適切にファイルし必要な情報を取り出しやすくしています	
内容②	保育園にはさまざまな書類が保管されていますが、それらを適切に整理・保管して、職員が必要な情報を取りだせるようにしています。子どもと保護者の情報を含む書類、保育サービスの提供や園の運営に関わる書類のほか、区役所から届く数多くのマニュアルや通知、国や都の機関から来るガイドライン類などを、種類別にファイルしタイトルや見出しを付けて、内容が分かる形で並べてあります。分類が確かであるために、古い書類と新しい書類の入れ替えをすることが容易であり、プライベートな情報の漏洩を防ぐことにも役立っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもたちが電車・動物・植物などに興味・関心が持てるように環境設定をしています	
内容③	保育室の壁には電車・動物・植物などの写真が貼ってあります。玄関には、カエルの模型を水槽の中に入れ、登園を渋っている子どもにカエルを見ながら「お部屋にもカエルがいるよ、探して見ようか」と声をかけて興味を持たせています。保育室には、色々な所にカエルの絵が貼ってあり、「〇〇を探せ!」とそのつどテーマの動物を変えて、興味を持たせています。また子どもたちの手が届く棚に自由に遊べるように玩具や図鑑を置いています。季節ごとに、子どもたちと一緒に壁面装飾を作ったり、違う玩具を提供するなど工夫して保育環境を充実させています。	

〔全体の評価講評：小規模保育事業〕

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	毎月のテーマとして旬の野菜を決め、触ったり切ったり匂いをかいだりして、五感を養う食育をしています
	内容	0歳から2歳児それぞれに食育計画を立てて、毎月積極的に食育活動を実践しています。野菜や果物、キノコなど毎月1種類をテーマにして、子どもたちが食材に親しみ興味を持つ経験をしています。1月のレンコンは、手遊びをしたり触ったり匂いをかいだりして興味を持たせ、保育士がピーラーで皮を剥く時の音、切った時の音を子どもたちに聞かせました。輪切りにしたレンコンを子どもに持たせると、それぞれが穴に指を入れたり穴を覗いたりしていました。発達に合った食育活動を通して、子どもたちの五感を養い、食への興味と意欲を育てています。
2	タイトル	日々の保育の延長として子どもたちに無理のない方法で行事を準備し、保護者も参加して一緒に楽しめるように工夫しています
	内容	7月の夏祭りや10月の運動会などには、保護者も参加して子どもたちの成長を感じる姿がみられます。夏祭りの日には、保育室内で山車を引っ張り、日常の中で練習をした盆踊りをしています。職員の手作りゲームやお面づくり、食べやすく手作りするポテトフライなど、親子で楽しめるお祭りになるよう工夫されていました。保育室内でおこなう運動会も日常保育の延長として楽しみながら練習に取り組みました。0歳児は親子競技、1歳児と2歳児はかけっこや年齢に応じた玉入れをしています。保護者も膝をついて子どもたちと同じ玉入れをして楽しみました。
3	タイトル	子どもの日々の姿を見つめ保育日誌等に具体的に記録することにより、その子の課題を個別月案に反映させて成長を支援しています
	内容	少人数の園である良さを活かし、一人ひとりに寄り添って、その個性・性格・特性に配慮した保育を心がけています。一人ひとりに「食育」「予想される子どもの姿」「保育者の援助と配慮」を記入した個別月案を作成し、月末には評価・反省をして、次月に課題を引き継いでいます。保育日誌には個別欄があり、友だちに玩具を貸してあげた、公園で虫を見つけて捕まえようとしたなど、その子の姿が具体的に記入され、成長のきざしを捉えて課題を見出す素材になっています。子どもを見つめ詳しく記録し指導計画を立てることにより、個々の成長を支えています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の計画的な成長に向けての取り組みを、育成計画としてもう一步具体的な形に表して実践されることを期待します
	内容	職員の採用と定着が困難な時代において、職員は自分が成長できると思えば定着に繋がると考えられます。成長を促すためにはそれにふさわしい育成計画が必要です。専門知識や技術力は当然のことですが、社会人としての能力や姿勢、高度なコミュニケーション能力やリーダーに成長した時のマネジメント力等が求められます。区が計画する年間計画書はじめ各種研修内容も参考にして、育成計画を構築されてははいかがでしょうか。作成に際しては全職員が参加することで、目指す方向が理解でき、計画作成への参画意識も湧いてくるのではないのでしょうか。

	タイトル	設置者は園児の確保を最優先事項と考え、自ら積極的に行動し、保護者から選ばれる園になる取り組みが望まれます
2	内容	<p>保育園を経営する経営者にとって少子化問題は園児の確保を阻害する大きな課題です。当園は3年で卒園するため、園児の入れ替わりが早いといえます。安定的に園児が集まるためには、質の高い保育を行う園であると地域から認められ選ばれること、他の園にはない特徴があること、安全安心な園であることが大事です。日本の0～2歳児の6割は未就園児であると言われており、近隣にも機会があれば入園させたい、と思う保護者や近々母親になる家族はいると思います。設置者は園児の確保を最優先として取り組んでいただきたいと思います。</p>
	タイトル	設置者は中長期計画では想いと考え方を表現し、事業計画は具体的な実行内容を中心に計画されることを望みます
3	内容	<p>当園は開設後4年が経過し、安定的な園の運営に向けての途上にあると思われます。今後、園の運営を進めるうえで大事な考えとして中長期計画と事業計画があります。中長期計画は3～5年後の姿や大きな課題の解決の方向性を決める指標となり、設置者の考え方が重要になります。現在一部数値を考えておられますが、何が大きな課題かを考えて立案されると良いと思います。年度事業計画は中長期計画の初年度に相当しますので、より詳しく実行内容を明確にすることが必要です。また、計画は必要に応じ変更も含め、さらなる精度の高い計画の立案と実行を期待します。</p>